

きこえにくいて、ということ？



音や声が聞こえない、あるいは聞こえにくいことを聴覚障害（難聴）と言います。

○どれくらい聞こえにくいか、日常生活や学習場面でどのくらい困ることが起こるかは人によって様々です。補聴器や人工内耳という補装具を使う人、使わない人、片方だけが難聴の人もあります。

○聞こえにくさがあると、音や声は聞こえていても、言葉として正しく聞き取るのが難しくなります。補聴器や人工内耳は、音を大きくする機械ですが、聞きたい相手の声だけではなく、周りの音や声も同時に大きくしてしまいます。

○雑音がある場所や距離が離れていると、想像以上に聞き取りにくくなります。できるだけ聞き取りやすい環境を整えることが、子ども達の言葉を豊かにし、正確な情報を伝えることにつながります。

○特に、これから始まる水泳指導では、指示が聴き取れないことを前提にして、安全面への配慮を最大限お願いします。

烏山北小HP

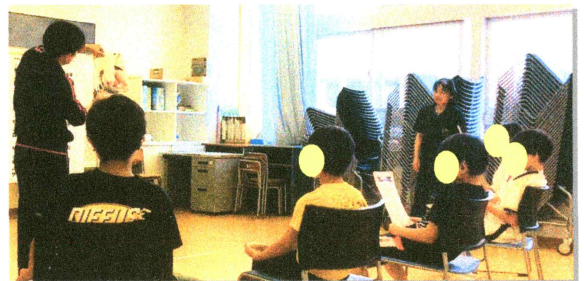


→[難聴児童の担任の先生へ]烏山北小学校 HP『きこえとことばの教室—理解と支援の手引き』では、教室でできる支援などをより詳しく紹介しています。ぜひ一度、アクセスしてみてください！

きこえグループ活動

烏山北小学校きこえの教室では、月に1度、きこえグループ活動を行っています。きこえの教室に通う児童が一同に集まり、スピーチ活動やゲームをします。

グループ活動のねらいは、『友だちとの関わりを楽しむ。』『集団での関わりを通して、状況や相手の気持ちを考えながら行動する意識を高める。』『聞こえにくさがある友だちと関わる中で、仲間がいるという安心感を味わう。』ことです。



今年度第一回は、5月15日（水）に行われました。グループ活動では毎月、リーダー企画タイムを行い、児童一人がリーダーとなり、ゲームの企画と進行をします。今回は、6年生男児がリーダーで「風船リングゲーム」を行いました。きこえとことば



の教室にある、大きな大きなバスケットゴール。平均台の上に立ち、ラケットで風船を打って、リングに入れたら得点です。単純なルールで簡単そうに見えて、なかなか難しい！最後は親子チームで挑戦し、とても盛り上がりました。

6月は1年生も参加予定です。今年度も楽しく実りあるグループ活動を行っていきます。